

農業体験農園から生まれる地域コミュニティー

世界都市農業サミット2019



全国農業体験農園協会
理事長 加藤義松

加藤家土地譲り渡し書

1729年
練馬区文化財
230枚

譲渡細帳之事

一 下細 拾万 九千九百

右之地面は及中及右に譲渡し如實受
 此地面は親縁者ならず及何方者持者
 意欲なき核命を譲り申志は加藤
 何れにても此地为度増し申す方者
 申す事は御親縁者今申す事は
 申す事は御親縁者今申す事は
 相親う申す事は御親縁者今申す事は

享保四年 加藤

加藤

加藤

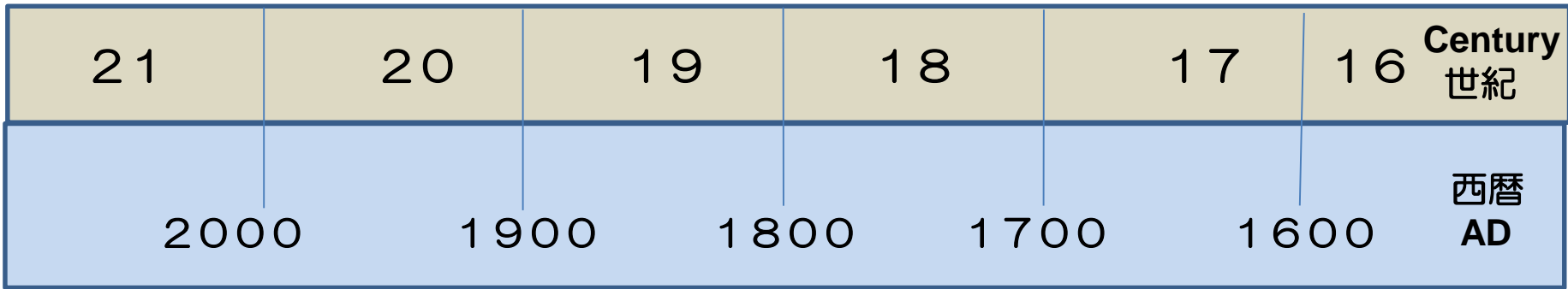
加藤

加藤

加藤

加藤

加藤



令和 平成

昭和 明治

大正

江戸

安土
桃山 室町




1947年南大泉の移り変わり



この航空写真は、国土地理院長の承認を得て、同院および米軍撮影の空中写真を使用したものである。(承認番号 平成18総使、第545号)

凡 例

 現在の生産緑地
町丁界

1968年新都市計画法

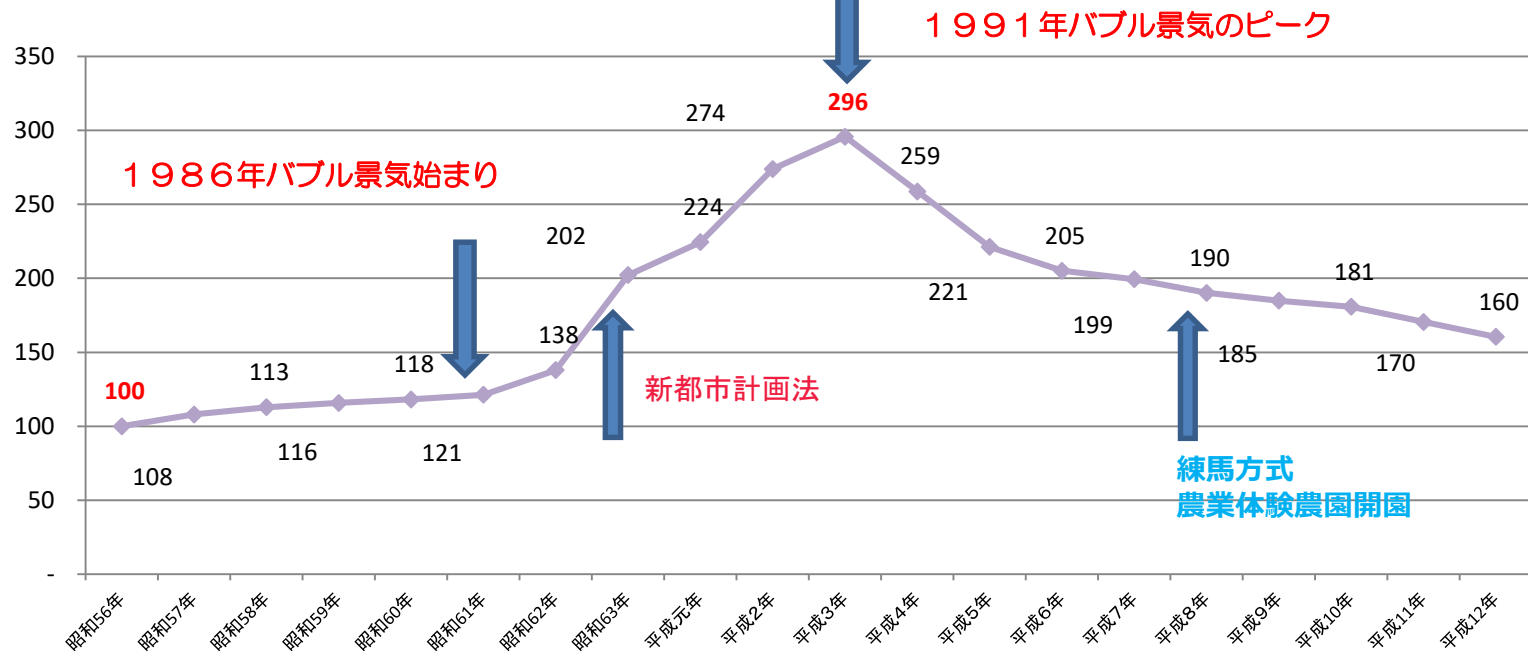


都市農業・都市農地をめぐる施策の背景

農業体験農園開設の時代背景

◆三大都市圏を中心とした地価高騰

○ 三大都市圏の地価の推移
(1981年を100とした指数)



資料: 国土交通省「地価公示」を基に農林水産省で試算。

地価高騰による都市農業不要論

農家の経営が少しずつ変化していく

市場出荷が主であった経営から
消費者交流型の農業に変化していく



農業体験農園とは・・・

消費者参加型農園の種類と相違点

■ 市民農園

農地を区画貸し、播種・栽培管理・収穫までの一連の作業を入園者が自ら実施する

農地所者は、農地の提供のみ

■ 観光農園

ブルーベリーなどの、収穫体験型

観光目的の一つとして果樹などの摘み取りを体験

■ 農業体験農園（練馬方式とも呼ばれている）

市民農園とも観光農園とも異なる

農家自らが野菜作りのコツ面白さや農業文化を伝える

農家が市民と交流しながら運営をする

農業体験農園はひとつの農地で多様な機能を発揮できる



地域にふれあいと
コミュニティをうみだす
交流創出機能



その時、
あなたを助ける備えとなる
防災機能



新鮮な農産物を食べて
まちおこしにもつながる
地産地消機能



農や食をとおして
学びの機会をつくる
食育・教育機能



まちの環境を整える
環境保全機能



まちなみにうるおいや
個性をもたらす
景観創出機能

農業体験農園

大災害に対する
防災・減災

交流の場の提
供、コミュニティ
の形成

新鮮な農産
物の供給

1996年
練馬で誕生



農業者
(園主)

×



市民
(参加者)

★農業経営の一部門とし
て農業者が開設、経営

安定的な収益
≠市民農園

★私たちの暮らしに「農業」
が持つ役割や使命を認識

“都市農業”の機能・役割
を1つの仕組みで実現

区内17園

全国およそ400園

良好な景観・
生活環境の
形成

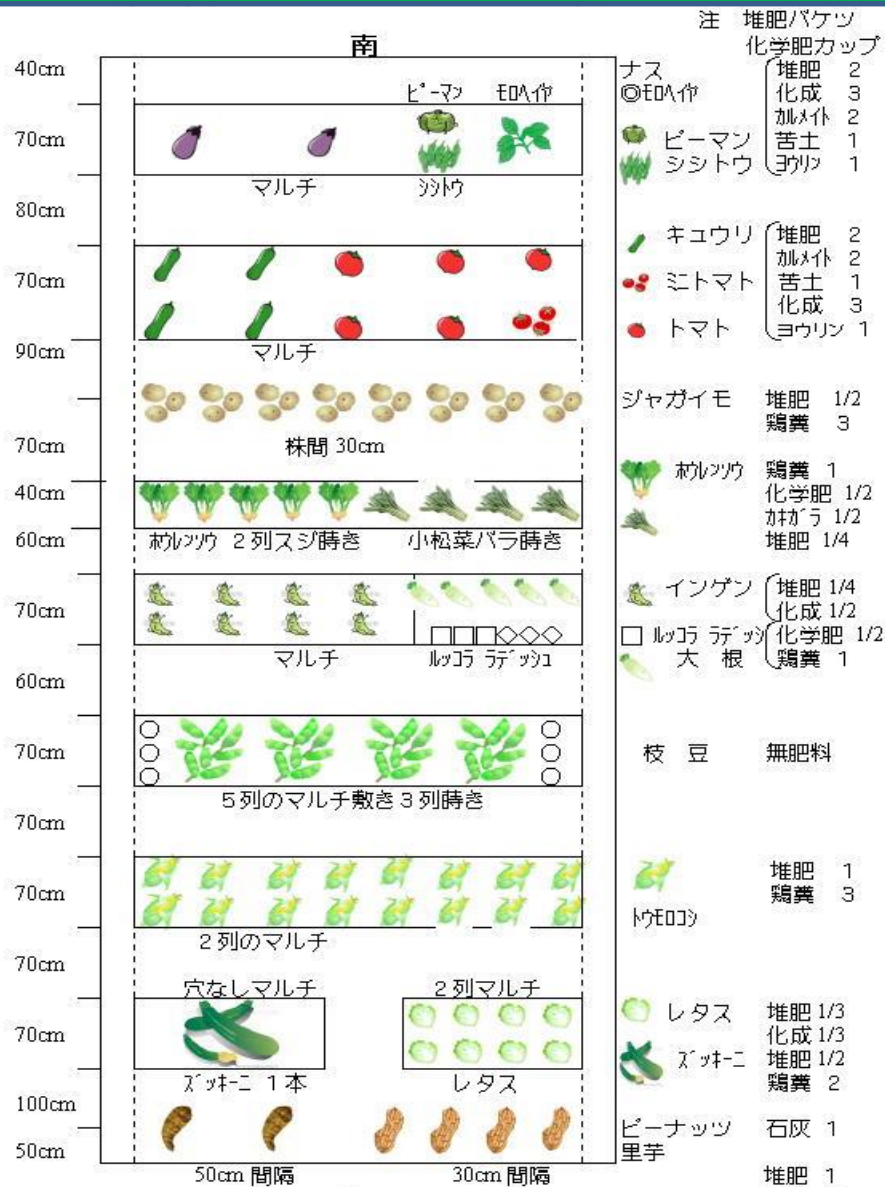
農業に対する
理解の醸成

生きがい・社会参
加・機能回復の場
の提供

農業体験農園の仕組み



講習会作付け表



☆ 隣との境界から20cm間隔を開けて種まきやマル子をします
 ☆ 決められた物以外は作付け出来ません

講習会日程表

		講習会時間
3月 	9日(日) 10時(農園クラブハウス) 1年目の方を対象に野菜作りの基礎知識	10:00～
	14日(金) 15日(土) 16日(日) <どこか1回参加> ジャガイモの植え付け 里芋、ホウレンソウ、コマツナ、インゲンの準備	14:00～ 日曜午後休み
	28日(金) 29日(土) 30日(日) <どこか1回参加> ホウレンソウ、コマツナの種まきとトウモロコシ、ズッキーニ、大根、レタス、ルッコラ、ラディッシュの準備	
4月 	4日(金) 5日(土) 6日(日) <どこか1回参加> トウモロコシ、大根、ルッコラ、ラディッシュ、インゲンの種まきと里芋、レタスの植え付け	10:00～ 14:00～ 日曜午後休み
	11日(金) 12日(土) 13日(日) <どこか1回参加> 果菜類の準備、枝豆、ズッキーニの種まき	
	25日(金) 26日(土) 27日(日) <どこか1回参加> 果菜類の苗植えをします ラッカセイの種蒔き ハサミと麻ひも、割り箸(5膳)を持参して下さい	
5月 	9日(金) 10日(土) 11日(日) <どこか1回参加> 果菜類の支柱を立てます ハサミとヒモを持参して下さい(スズランテープ不可)	10:00～ 14:00～ 日曜午後休み
	23日(金) 24日(土) <どこか1回参加> 野菜管理と農薬、自然農薬の基礎と使い方 ゴム手袋マスクを持参してください	
	25日(日) 12時より1品持ち寄り食事会(詳細は後日お知らせします)	
6月	13日(金) 14日(土) 15日(日) <どこか1回参加> 野菜管理	10:00～ 14:00～ 日曜午後休み
	27日(金) 28日(土) 29日(日) <どこか1回参加> ネギの定植とニンジンの種まきの準備をします	

注意事項

- ☆ スチール缶(肥料を量るのに使います)350mlご持参ください
- ☆ 講習会は変更や中止の場合があります(掲示板、メールにてお知らせします)
- ☆ 農園前の駐車堅くお断りいたします(専用駐車場あります 1回300円回数券あり)
- ☆ 畑の目印に割り箸があると便利です
- ☆ 種は講習会毎に配ります
- ☆ 雨上がりは滑りやすいので注意して下さい
- ☆ 野菜作り忙しさのピークは6月～7月ここを過ぎれば後は楽々

講習会の様子

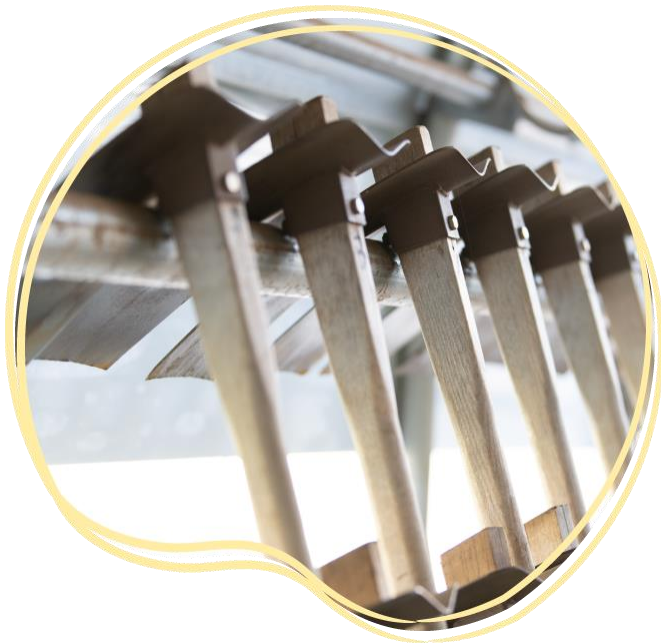


作業は全て利用者が行う（食育、教育）



農具は全て用意する

- 1 個人では運搬が大変
- 2 農具は整備されている
- 3 農薬も時期に合わせて必要な種類が用意される
- 4 マルチシートや防虫ネットなど必要な物は全て用意



種は必要な量を小袋に分ける

- 1 美味しい品種を選ぶ
(良い品種は農家の長年の経験から選ぶ)
- 2 必要量だけ渡す
(種を無駄にしない)
- 3 苗も準備する
(良い苗を選ぶ)



素人でもお店に並ぶような
立派な野菜を作ることができる



農家の高い技術が生産性を高め健康に役立つ

1区画 約270kgの収穫量
(30m²)

一人当たりの年間消費量 90.8kg

1区画で家族3人分をまかなえる

(2018年東京大学 飯田)



住宅に囲まれている農地（景観が良い）

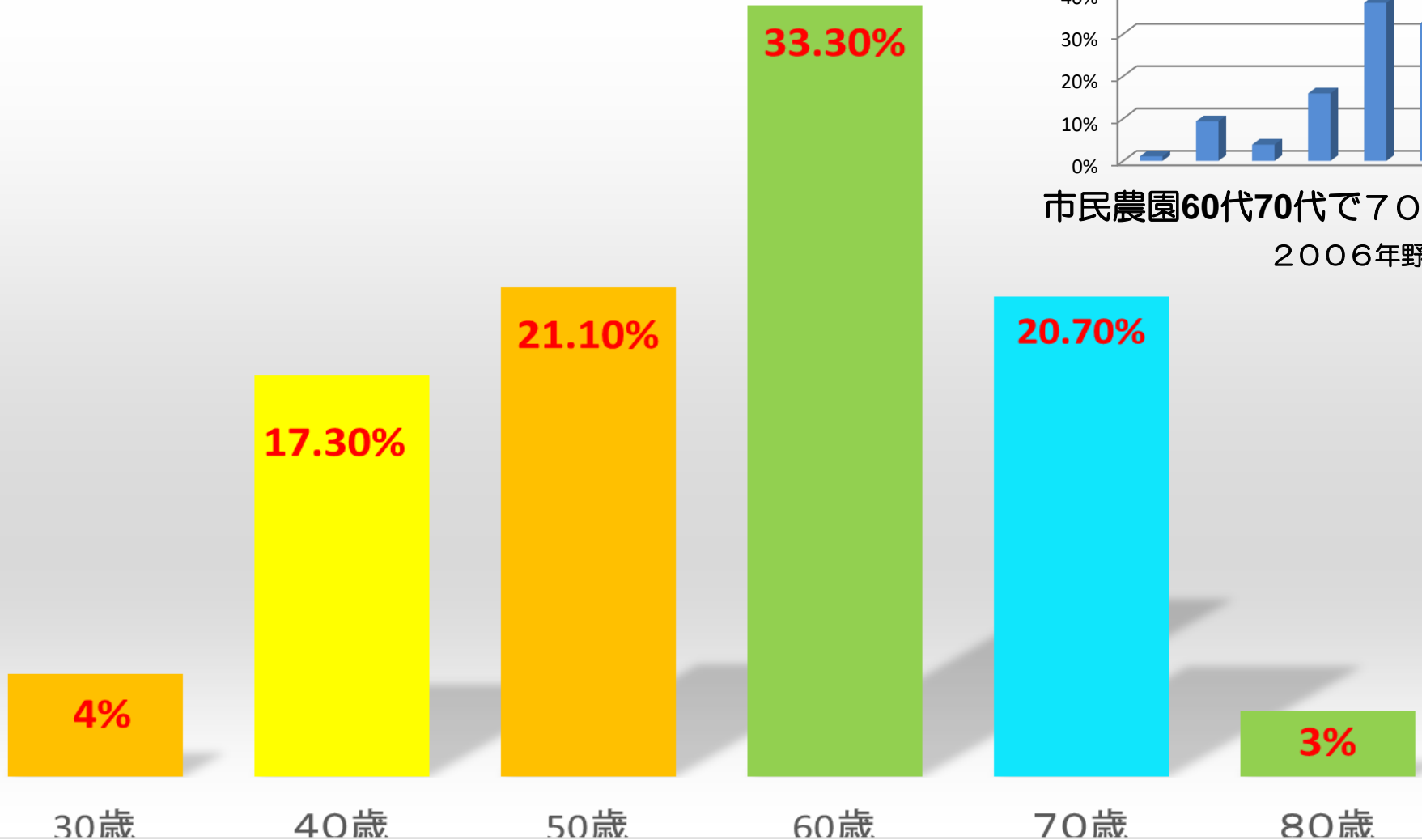
地産地消



体験農園を上空から撮影（環境保全）



利用者年齢層



和歌山大学観光学部. 藤田武弘教授
資料より作成 2017.3





イベントに対する意向

できるだけ参加したいと思っている	69.0%
いろいろな人と交流できてうれしい	40.0%
交流会など行事自体が楽しい	24.5%
家族と一緒に来られるので良い	19.9%
交流会などの行事に主体的に参画していきたい	14.0%
友人が出来て農園以外の交流が進んだ	9.0%
友人ができて農園の管理が楽になった	6.8%
限られた人達の行事になっている	6.1%
あまり参加したくない	6.0%
その他	8.7%

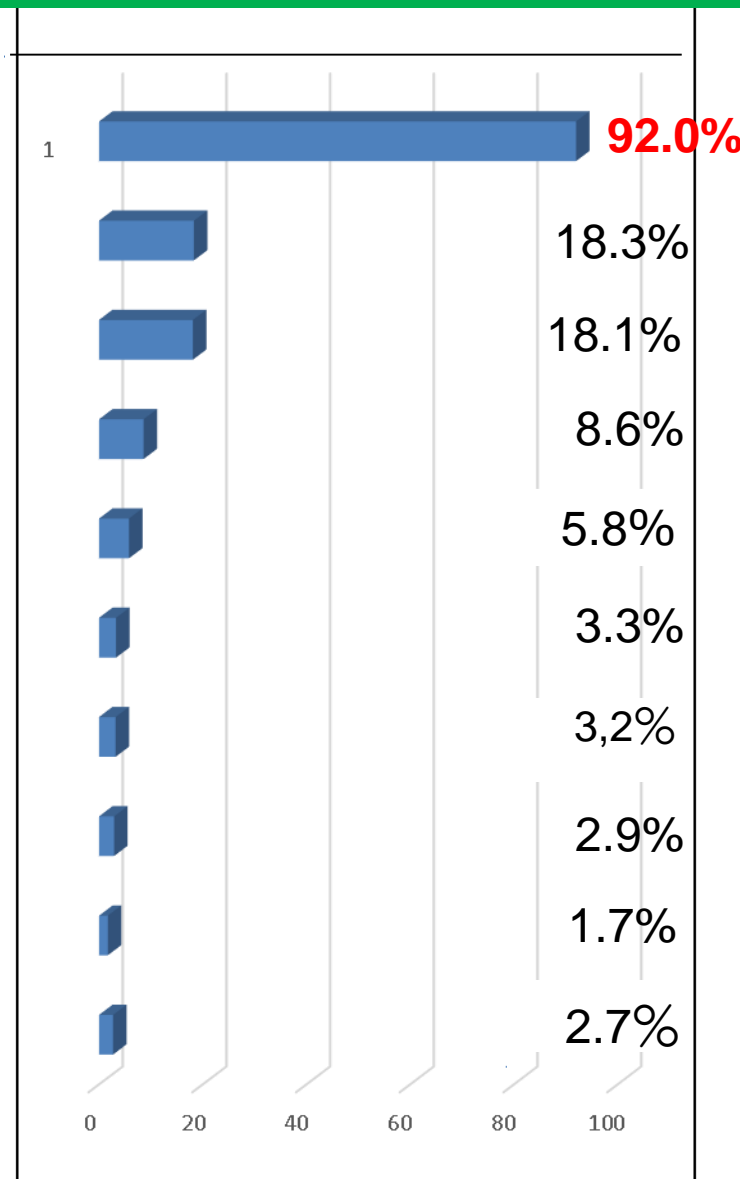
畑での防災訓練(防災機能)

2019年、区内9農園で実施



利用者 今後の意向

- 1 **今後もこの農園で続けていきたい**
- 2 農業体験農園の中に自由に作れる区画がほしい
- 3 農園は変わっても農業体験農園は続けたい
- 4 農業体験農園と市民農園両方を利用したい
- 5 農村等に移住して農業を中心とする生活をしたい
- 6 郊外の面積の広い農業体験農園を利用したい
- 7 自由に作れることができる市民農園に移りたい
- 8 農地を借りて本格的な農業経営をしたい
- 9 農業体験農園を続けていくことは難しい
- 10 その他



農業体験農園を開設してみた農家の感想

農業所得が増えた

労働時間の省力化ができた

労働の質が変化して経営にプラスになった

入園者が農業体験農園の行事・作業などの運営に参加してくれて助かっている

入園者が農業体験農園の行事・作業などの運営に参加してくれて助かっている自作の農業も手伝ってくれて助かっている

体験農園以外の部分の作付を変えて経営のプラスになった

直接消費者と触れ合えて「農業のやりがい」ができた

多くの人たちと交流ができて楽しい

農業所得が減少した

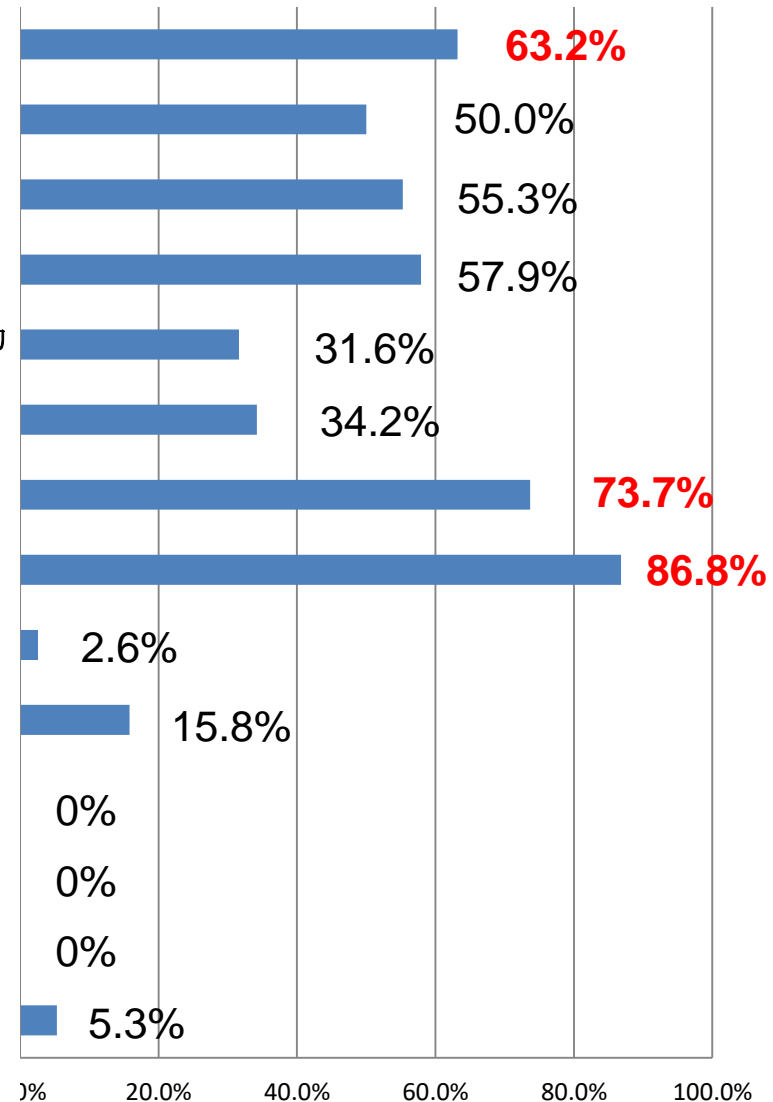
労働時間が増えた

全体の農業経営の足を引っ張ってマイナスとなっている

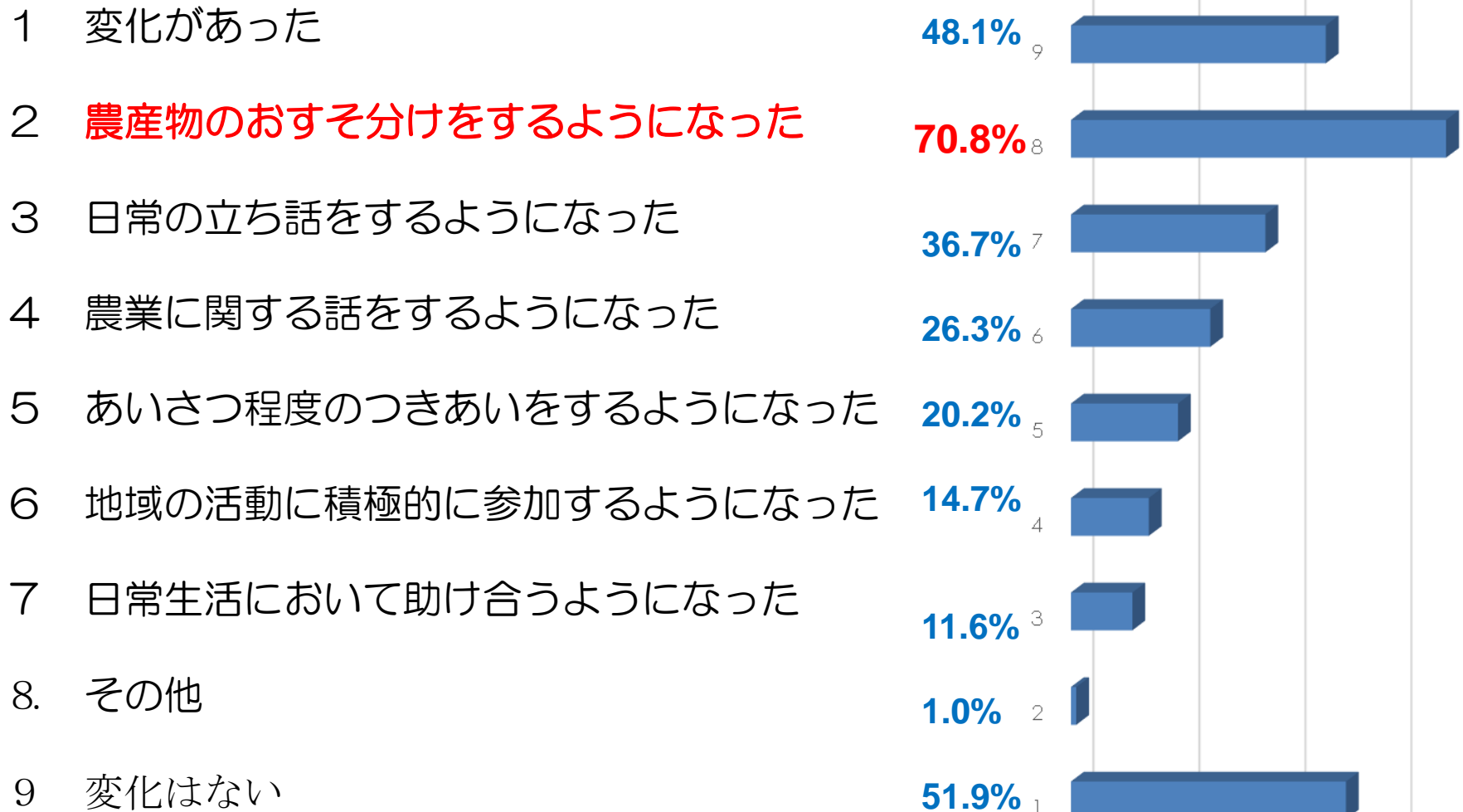
人との交流が煩わしい

特に何も感じていない

その他（所得が安定した,家族が畑を楽しむようになった）



地域住民との付き合いの変化の有無とその内容



地域の繋がりが大きく変わった長島さん

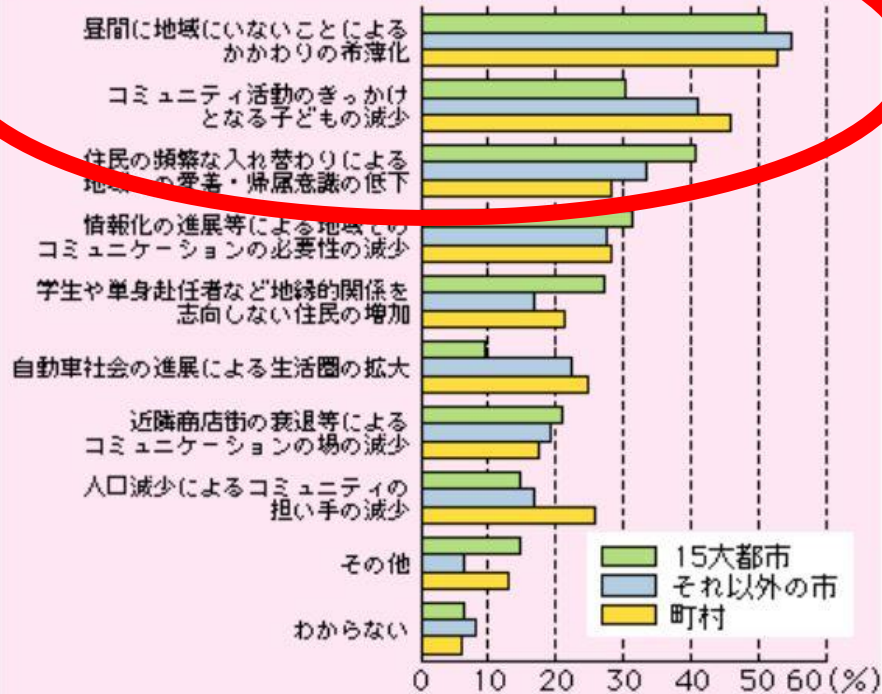


都市の暮らしと体験農園

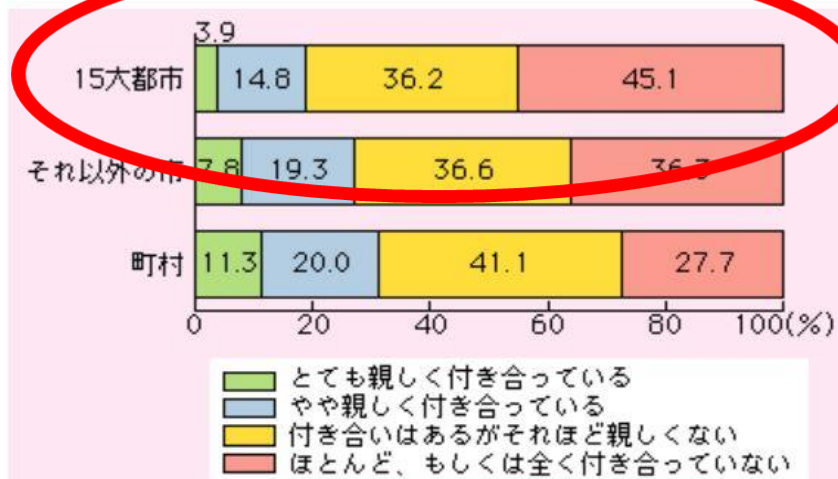
農業体験農園で得られたもの

自己紹介

地域コミュニティの希薄化



都市部では約8割の人が地域での付き合いがない



(注) 全国の一般世帯を対象に、インターネット調査を実施
(標本数2,000、平成17年12月調査)
資料) 国土交通省

平成17年国土交通省データ

農業体験農園に参加して



体験農園で採れる新鮮な野菜





彩鮮やかな夏野菜

秋野菜の収穫



講習会



農園でのつながり



子どもたちが収穫を手伝って くれました



体験農園をきっかけに

小学校のPTA会長に



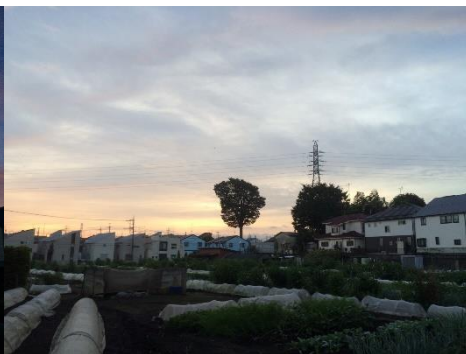


おやじの会



消防団活動





農園の 素晴らしい風景



最後に





畑から、地域とつながる

農業体験農園と子ども食堂をむすぶ
《野菜のおすそわけ》活動



自己紹介

村山 純子

練馬区在住 今年で7年目

* 2002年～2014年

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事

* 2016年～現在

同法人 事務局スタッフ

* 2014年～ 農業体験農園「緑と農の体験塾」塾生となる

* 2015年～ 《野菜のおすそわけ》プロジェクトを開始

《野菜のおすそわけ》とは

体験農園の利用者の方々から
野菜を募り「子ども食堂」などの地域
活動や食の支援活動などに寄付する



《野菜のおすそわけ》を始めたきっかけ

- ✓ 「体験農園で採れる、家族や友人だけでは食べきれないほど豊富な量の野菜を活かせないか？」

* 困窮するひとり親世帯への食料支援

新鮮で栄養価の高い野菜を成長期の子どもに送りたい

* 練馬区で複数の「子ども食堂」がスタートという情報

地元で育てた野菜を地元の活動に提供したい



体験農園から子ども食堂へ
《野菜のおすそわけ》活動をスタート！



「子ども食堂」とは

* 子どもたちや高齢者など地域住民に対し、地域のボランティアが無料または安価で栄養のある食事を提供する取組み

* 子どもの貧困問題を背景に2015年頃から全国各地で取り組まれるようになった

* 2019年現在、3718カ所

(NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえの調査結果)

(厚生労働省 平成30年6月28日「子ども食堂の活動に関する連携・協力の推進及び子ども食堂の運営上留意すべき事項の周知について(通知)」より)

「子ども食堂」 活動はさまざま



困難を抱える子どもたちへの支援を中心に活動するもの



地域たちを対象とした交流拠点を設けようとするもの



子どもたちに限らず、その他の地域住民を含めて対象とし、

交流拠点を設けようとするもの

2019年7月現在

練馬区 こども食堂 MAP

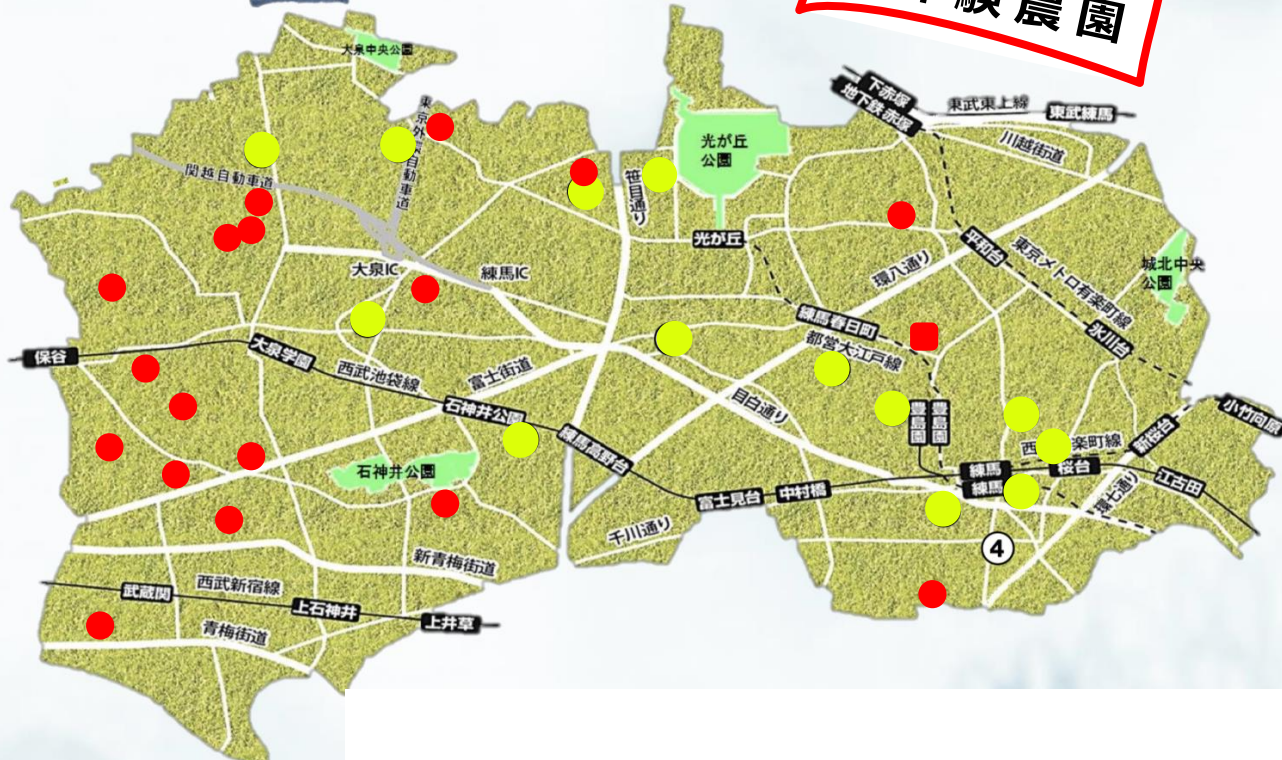


● 子ども食堂(14)

2019年7月現在

練馬区 こども食堂 MAP

+ 体験農園



● 農業体験農園(17)

● 子ども食堂(14)

2019年7月現在

練馬区 こども食堂 MAP

+ 体験農園

緑と農の
体験塾



● 農業体験農園(17)

● 子ども食堂(14)



* 他の体験農園にも呼びかけ、3つの体験農園から野菜を集荷、5つの子ども食堂へ配送。

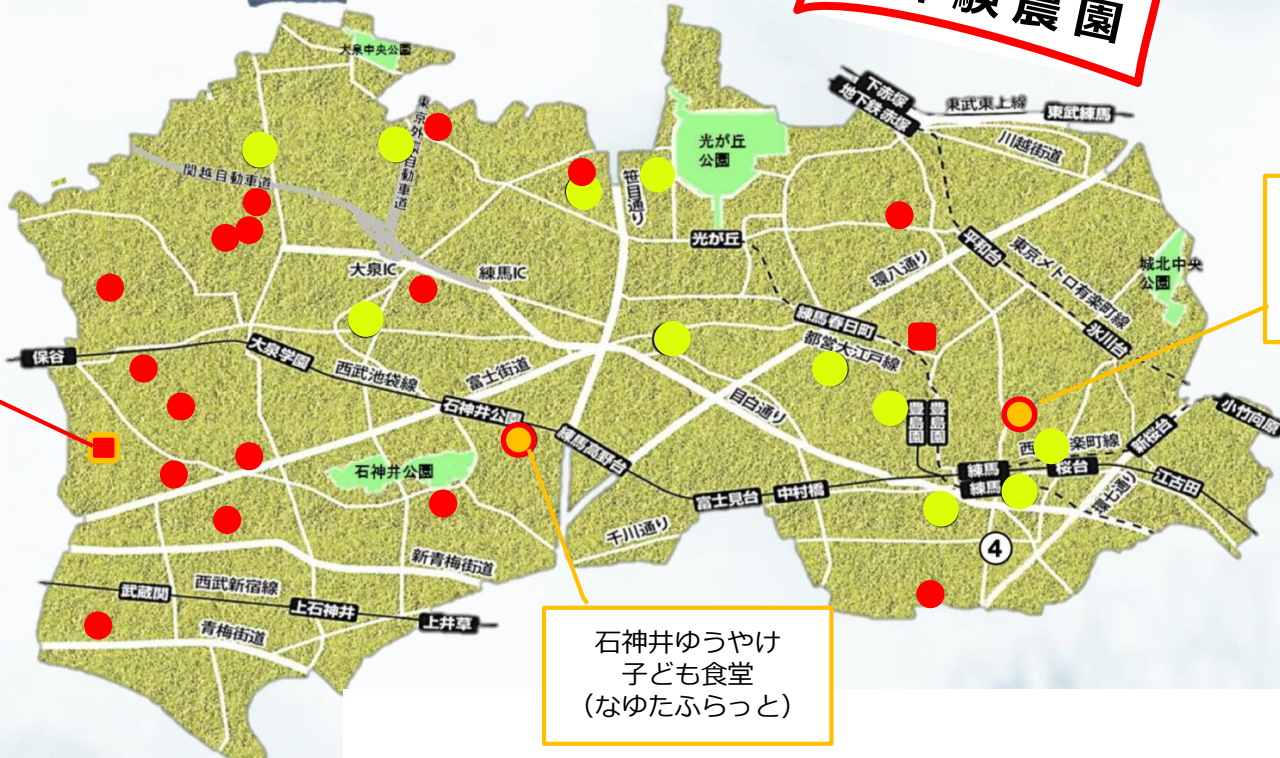
* 農園それぞれで近くの子ども食堂におすそわけをするようになる



2019年7月現在

練馬区 こども食堂 MAP

+ 体験農園



緑と農の
体験塾

桜台こども食堂
(東京子ども子育て
応援団)

石神井ゆうやけ
子ども食堂
(なゆたふらっと)

● 農業体験農園(17)

● 子ども食堂(14)

石神井ゆうやけ子ども食堂

- * 「なゆたふらっと」と「野の花伝道所」の共催
- * 2014年12月より食堂をスタート
月2回（第1金曜、第3日曜）開催
- * 2019年7月までに延べ103回開催。
- * 毎回40名～50名の子どもと大人が参加。
子どもだけでなく、高齢者の参加も多い



桜台こども食堂



- 2015年10月：子ども食堂月2回（第2、第4火曜）
練馬区桜台の練馬バプテスト教会ホールにて開設
- 2016年7月：学校休業中の昼食事業を開始
- 2016年8月：宅配事業開始
- 2016年9月：学習指導事業を開始
- 2018年2月：一般社団法人 東京子ども子育て応援団
設立





認定NPO法人 しんぐるまざあず・ふぉーらむ



1980年に発足 2002年よりNPO法人
当事者が中心のNPO

シングルマザーが子どもといっしょに生き生き楽しく生
きられるように、勇気づけ、社会で活躍できる支援を行
っている

- * 電話・メール相談
- * 食料支援
- * 親子野外イベント
- * 入学お祝い金事業
- * キャリア支援プログラム
- * メルマガ発信
- * 出版事業
- * 支援者養成
- * シングルマザー向けセミナー
- * 政策提言



相談と連携した食料支援

おすそわけ野菜は米、食品、菓子
などと一緒にパッケージ
電話相談などでつながった支援が
必要な世帯に随時、送付している
(月に7~8世帯)

困難を抱え孤立するひとり親家庭と
つながるきっかけとなっている

single mothers For Mom ◆ 食料パッケージの感想をお聞かせください。種類や量はいかがでしたか。

ありがたいという気持ちしか、ありません。
いつもいつも助けていたからこそ本当にありがたうございます。
大切に使用させていただきます。

◆ その他、ご自由にお書きください。

頂いたお野菜も大切に食べています。娘は特にスッパモンとても気に入ったようで、喜んでいました。あの時死んでしまったら今娘に引き継がれる全ての事ができなかつたのだと思うと

◆ お名前(よろしければ) 〇〇とします。

又、お便り致します。 〇〇月〇〇日
パッケージをお送りしたのは 6 月 15 日





共同畑で野菜づくり

- 2016年からは二つの子ども食堂としんぐるまざあず・ふおーらむが共同で体験農園に区画を借り、野菜作りを始める
- 3団体のスタッフや大学生、区民、食堂の利用者、会員などが作業に参加



- 月3～4回、体験農園の講座開催と子ども食堂の開催日に合わせて作業。
- 収穫した野菜は3団体でシェア。
- 2018年からは共同の畑は2区画に。



子どもたちも農作業に参加

- 子ども食堂を利用している親子も農作業に参加
- 食堂で食べる野菜を自分で種をまき、手入れし、収穫する経験は、子どもにも大人にもも発見と喜びがある
リフレッシュと食育の場となっている



農園のイベントにも参加

農園の食事会や夏祭り、収穫祭などに子ども食堂の子どもたちやスタッフも参加。
農園利用者の方々との交流も生まれている





ありがとうございました